



地域雇用対策情報マガジン「地域雇用NOW！」No.85

## 実践型地域雇用創造事業シンポジウム

### レポート！！

例年開催している「実践型地域雇用創造事業シンポジウム」が今年度も開催されました！今回で、なんと、12回目！本シンポジウムは、厚生労働省の委託事業である「実践型地域雇用創造事業」に関し、事業に取り組むためのポイントやその効果等を周知することにより、事業のさらなる活用を図るためのものです。

今年度は平成29年10月12日(木)に開催され、入場者数は約200人となり、大いに盛り上がりました。

本メールマガジンでは、ご来場いただいた方にも、残念ながらいらっしやれなかった方にも、当日の様子をお届けいたします！！

今年度のリーフレット▼



今年度のテーマは、

「探したそう！地域の宝。」

～飽くなきチャレンジが雇

用を生み出す～」です。



今年度より、本シンポジウムのロゴマークを作成しました★

各地域の多様な資源とそれらを活用する人々を表した華やかなマークとなっています。

## ☆～シンポジウム開演～☆



今年度の総合司会は地域雇用開発支援ワーキングチームの菊地委員（東京農業大学准教授）【左】と風神委員（中京大学准教授）【右】に務めていただきました。



## (1) 牧原厚生労働副大臣による主催者あいさつ

### (坂根雇用開発部長代読)



#### 【概要】

現在、多くの地方では、人口減少や高齢化が続いています。商店街はシャッターが下り、工場は海外に移転し、郊外には休耕地、耕作放棄地が広がる、地域にとって大変厳しい状況が続いてきました。

一方で、日本の各地域には、それぞれの特色、魅力があふれています。その特色、魅力を活かして、それぞれの地域が持続性をもって発展、成長していくことが地方創生の目指す姿ではないかと考えています。

そうした中で、地域の関係者の知恵を集め、特色を活かして魅力的な雇用をつくり、地域を支える人材の育成と定着を図ることは、地方創生へ向けた重要な取組と考えています。

このシンポジウムが、お集まりの皆様にとって、「如何にして地域に根付いた取組を広げていくか」ということを考えるヒントになることを祈念いたします。

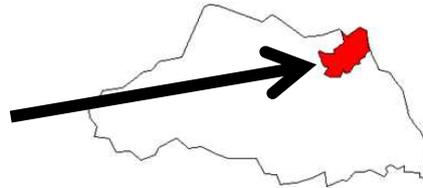
## (2) 事例紹介

次は、事例紹介のコーナーです。先進的な取組事例として、今年は①埼玉県加須市と②沖縄県宮古島市の2地域に取組状況を紹介していただきました。



# ①埼玉県加須市

ココ！



▼開発商品「米麴甘酒」



開発商品「プリザーブド  
フラワー」に係るちらし▼



▲開発商品「甘酒プリン」

## 【概要】

加須市は、埼玉県の東北部、関東平野のほぼ中央部を流れる利根川中流域にあり、古き良き歴史を残した都市機能が集積する市街地と、その周辺に広がる農村地域とが調和するまちです。

しかし、大型店舗の出店や後継者不足等により中心市街地の空洞化が進むとともに、農村地域では、農家の高齢化、後継者不足が問題となってきました。

こうした課題を克服するため、①生産から加工・販売までの六次産業化を進め、地元農産物を活用して新商品の開発・ブランド化を行う事業と、②事業主の経営力強化や事業主が求める人材を育成する事業を行い、農村部や中心市街地の活性化、雇用機会の拡大を目指そうと考えました。

新商品の開発に当たっては、出来るだけ多くの方にチャレンジしてもらうため、身近にある農産物であること、少額の資金で容易に取り組めること、アイデア次第で様々な商品にブラッシュアップできる素材であること、小ロットでも確実に利益を見込めることなどを考慮して、イチジク・米麴・生花を活用した商品開発に取り組みました。

ここまでの2年間で、イチジクでは11の事業者、米麴では10、プリザーブドフラワーでは6の合計27の事業者が事業化に取り組んでいます。

雇用機会の拡大に向けては、事業主向け、求職者向けのセミナーなどを開催しました。

事業主向けのセミナーでは、市内の事業主同士でもあまり面識がなかったことから、ビジネスチャンスの拡大を図るため、セミナーの終了後に、事業主さんが自慢の料理の一品を持ち寄って交流会を開催するなど、開催の方法に工夫をしました。

求職者向けセミナーでは、当初は参加者が少なかったのですが、ハローワークの雇用保険受給の説明会でチラシを配布するなど募集の方法に工夫して参加者を拡大させることが出来ました。



## ②沖縄県宮古島市

ココ！



◀「完熟マンゴーとクリームチーズタルト」



◀▲「ジェルキャンドル」

### 【概要】

宮古島市は、沖縄本島から南西に約300kmに位置する大小6つの島で構成されるまちです。

宮古島には多くの観光客が訪れますが、台風などの天候不良で観光客が屋外に出られないこともあることから、ホテル内でも体験できる「ジェルキャンドル体験」を観光プランとして開発しました。「ジェルキャンドル」とは、透明なジェル状のろうそくを器に入れてつくるキャンドルのことで、宮古島の海を思い出として持ち帰ることが出来るように、ジェルに海の色をつけたり、キャンドルに入れるシーサーなどのパーツを開発して、オリジナル性を出しました。

また、宮古島では島外に商品を流通させるためのコストが負担となって、事業主の方が島外への発信に乗り出せない状況にあるので、島外の顧客の獲得のため、島の特産物を使ったスイーツの開発に取り組みました。マンゴーやパッションフルーツなどの島の特産物を使った未発表のスイーツを集めたコンテストを開催して、グランプリを獲得した商品には、ご当地メニューになるようフォローアップを行いました。その結果、平成27年のグランプリで金賞を受賞した「完熟マンゴーとクリームチーズタルト」は、東京ディズニーリゾート内の商業施設でも2年連続で販売され、完売することができました。

日頃から協議会のスタッフが市役所や関係団体主催のイベントにボランティアスタッフとして参加したことが関係団体との相互連携の強化に繋がったと思います。こうした連携の下で事業が進められ、協議会以外のメンバーと一緒に事業を進めている感覚で気にかけてくれたことが、結果的には良い結果に繋がったと実感しています。

### (3) 基調講演

株式会社油津応援団専務取締役で、福岡県那珂川町の事業間連携専門官も務める木藤亮太氏をお迎えし、木藤氏が取り組んだ宮崎県日南市の油津商店街の再生について、ご講演いただきました。



▲カフェ「ABURATSU COFFEE」

#### 【講演のポイント】

- ・日南市の中心市街地である油津商店街の再生に向けて、約4年間で20店舗を誘致するためのマネージャーとなる人物を市が全国から募集し、応募者333人の中から木藤氏を選ばれた。当時、油津商店街は、「猫さえ歩かない」と言われた、いわゆるシャッター通りであった。
- ・最初の店舗づくりは、地元で愛されていた喫茶店を改修し、カフェ「ABURATSU COFFEE」として開業。カフェの経営は、木藤氏とまちの同志自らが資金を出し合って設立した、「株式会社油津応援団」が主体。借入をして会社をつくるという「覚悟」を決めて事業に取り組んだことが、市民に本気度として伝わり、結果45名以上の市民から計約1,500万円もの出資が集まった。
- ・商店街の再生に当たっては、店舗を誘致すること自体を目的とするのではなく、やりたいと思っている人を探し出し、事業計画作成の助言など必要な支援を行う「起業家支援」的な発想で店舗をプロデュースすることが、継続性を生むことになった。
- ・商店街の周囲では、IT企業の進出や油津でキャンプを行う広島カープの盛り上がりなど、常に変化が生じており、こうした変化に適応することが重要。商店街では、IT企業に勤める子育て世代の従業員のために新たに保育施設が設置されたほか、市が主催したビジネスプランコンテストで優勝した大学生が、カープキャンプの来客を宿泊に繋げるため、宿泊施設の経営を始めた。
- ・商店街の再生という一時的なインパクトを目的とするのではなく、商店街で廃業する既存の店舗に新しい事業主を紹介し、商店街の世代交代がスムーズに進む状況を作るという事業後の継続性が重要。市の事業終了後は、油津応援団がその役割を担っている。

～ここで 15 分の休憩タイム！！～

## (番外編) 成果物コンテスト

参加者の方々は、この休憩時間を活用して、成果物コンテストをご覧になっていました！では、成果物コンテストの様子を覗いてみましょう。

成果物コンテストとは、協議会が開発した商品等の成果物を展示・投票して、食品部門、ものづくり・観光・ブランド化部門のそれぞれ1位を決めるコンテストです。また、昨年度から、商品開発や地域振興等について知見のある有識者からの推薦による特別賞が設けられました。

今年度は食品部門に28エントリー、ものづくり・観光・ブランド化部門に14エントリーがありました。



皆さん試食をしたり、説明を聞いてメモをとったり、名刺交換をしたり交流が深まっている様子でした。



**投票結果は後ほど発表します☆**

～休憩終了～

## (4) パネルディスカッション

慶応義塾大学の樋口美雄教授をコーディネーターにお迎えし、パネルディスカッションを行いました。メンバーは、事例紹介地域である埼玉県加須市の大橋市長、沖縄県宮古島市の長濱副市長、基調講演をいただいた木藤氏、本事業のワーキングチーム委員である北海道大学大学院の岡田准教授の4名です！



### 【主な意見】

#### テーマ①「地域の資源・魅力」

- ・埼玉県加須市も沖縄県宮古島市も、これまで生産者自身が農産物を加工し付加価値を付けるという六次産業化の発想がなかった。そんな中、生産者の高齢化や人手不足により農業の見直しが求められていたところ、埼玉県加須市では本事業で農業の六次産業化に取り組み、地域内に既に存在・生産している地域資源に付加価値をつけることで、農業関係者にインパクトを与え、市内での農業の新たな方向性が見えた。
- ・地域の資源から商品化だけ先行してしまい、雇用に結び付かないという事例が多くある。事業主がどのような人材を求めているかや求職者がどのような仕事を求めているかなどのニーズ調査などを行ったうえで、どのような雇用を生み出せるかという結果から商品化を検討していくことが地域の資源・魅力を雇用につなげるポイントとなる。

次頁に続く・・・



## テーマ②「地域の絆・連携」

- ・加須市では、これまでも「市民との協働」をまちづくりの基本としてきており、本事業でも花咲徳栄高校など多くの方の協力を得られることができた。
- ・宮古島市は、島社会なので顔が見える関係にあり、普段から連携が図られているので、事業を進めて行くうえでも、他の主体との連携が上手くいっている。
- ・日南市では、雇用機会を創出する仕組みや人材を育成しようという「創客創人」を市の共通の目標として掲げてきた。「商品開発」や「商店街の再生」「六次産業化」などのみを目標とするのではなく、市や町としてのより大きな目標を掲げることで、主体や考えがバラバラであっても1つの方向を向くことができる。
- ・関係者を巻き込むタイミングが遅れるというのが、事業の失敗で多い原因。人を巻き込む軸となる中心人物、地域で中心となる人脈が必要になる。またコミュニケーションが多く取れるような仕組みや状況を作っておくことも非常に大事。

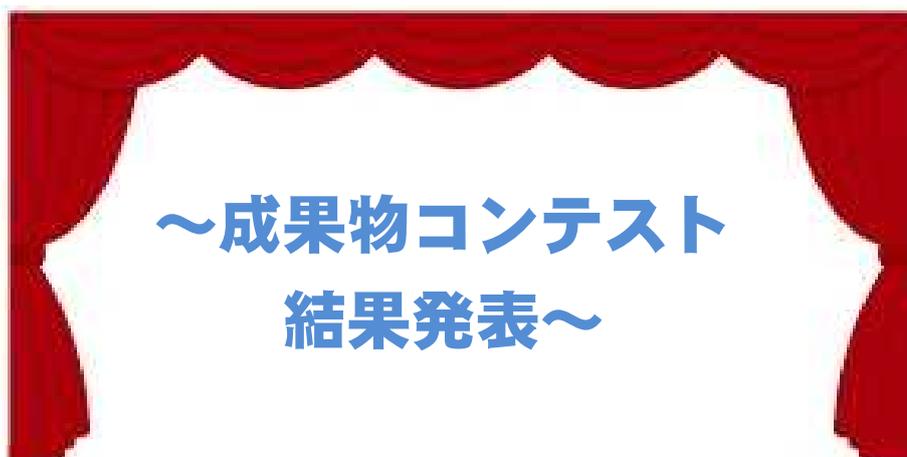
## ☆～シンポジウム閉会～☆



以上、今年度のシンポジウムのレポートでした！

お忙しい中ご参加いただきました皆様、まことにありがとうございました。

**お待たせしました！ここで成果物コンテストの結果発表です！！**



**まずは第1位からの発表です！！**

食品部門 第1位  
糸満市地域雇用創造推進協議会  
かまぺた



沖縄カマボコ発祥地糸満ならではの商品コンセプトに、もずくと海ぶどうを練りこむことで、より沖縄らしさを感じられる作品に仕上げました。当初は、油で揚げるチップスでしたが、消費者のニーズに合わせて、ノンフライに仕上げました。①もずくと海ぶどうの含有率②風味を出す為の焼き時間と温度③噛み応えのある厚み④型外れ、焼き縮みの対策の4点を工夫しました。

ものづくり・観光・ブランド化部門 第1位  
加須市地域雇用創造協議会  
プリザーブドフラワー



加須市内で栽培される花き類を加工し、生花の長期保存と商品化の可能性を模索しました。花き業界が全体的に苦戦している中でも、プリザーブドフラワーの部門は年々増加傾向にある魅力的な商材です。加須で栽培される花で検証を繰り返し、知り得たノウハウを成果物公開セミナーで公開しましたところ、生産者はもとより、生花店、一般の方まで広く興味を持って頂き、現在皆さんそれぞれに商品化に向け取り組んでいただいている所です。



続いて特別賞の発表です！

食品部門 特別賞

高島地域雇用創造協議会

たかしま発酵の雫



「5つの味の発酵食材を同じ地域で揃えられるのは高島だけ。」様々な発酵食品がある、“多様性”が魅力の高島市は「発酵するまち高島」としてPRしていますが知れ渡っていない現状です。発酵食材を使った手軽なお土産の無い、高島の新しい商品です。共通の生地に液体・半練り・固形物と水分量が異なる食材を常温で保管する商品に仕上げるために数々の試作をしました。

ものづくり・観光・ブランド化部門

特別賞

南城市地域雇用創造協議会

ハーバルバスソルト



市内で生産される天然ハーブと、神の島とされる「久高島」の海水塩を使用しました。県で力を入れるリゾートウェディング事業において、新婚夫婦の写真を貼った引出物としての導入や、土産品での販売、リゾートホテルの客室アメニティとしての注文もあり、人気を博しています。安心の100%天然素材から抽出された色と香りを手湯でご堪能ください。海のミネラルとハーブの効能で、滑らかなお肌が実感できます。

受賞した協議会のみなさま、おめでとうございます！！  
壇上での素晴らしいコメントもありがとうございました。

来年度も開催する予定ですので、お楽しみに♪





※シンポジウムでご紹介した埼玉県加須市と沖縄県宮古島市の事例映像は、厚生労働省HPで公開しています。是非ご覧ください。

▼実践型地域雇用創造事業のホームページはこちらです▼

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000048510.html>

=====

(担当)

厚生労働省 職業安定局 地域雇用対策課 地域雇用指導係

=====

注1) 本メルマガにより、地域雇用対策の情報を随時お届けいたします。

あらかじめ登録された方のメールアドレス宛お送りしていますが、ぜひ、組織・部署内の皆様に転送していただき、情報を共有していただければ幸いです。

注2) 今後配信を希望されない場合には、各都道府県労働局あてにご連絡下さい。

また、メールアドレスを変更される場合にも、同様に各都道府県労働局にご連絡下さるようお願いいたします。なお、配信不能となったメールアドレスは宛先から削除させていただきますので、ご注意ください。

注3) 本メルマガにつきまして、「このようなコンテンツを掲載して欲しい」などのご要望がございましたら、[jissen-team@mhlw.go.jp](mailto:jissen-team@mhlw.go.jp)までお寄せ下さい。